



融通無碍

ゆう づう む げ

自由で多彩、そして日常の一部として展開する制作

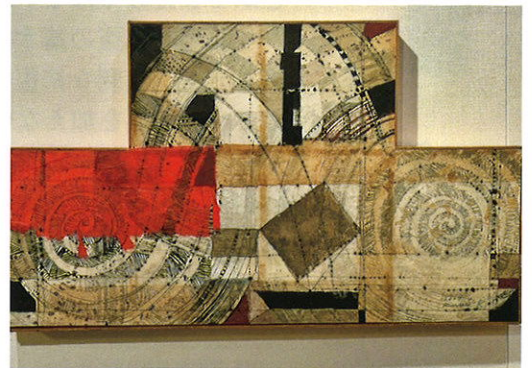
融通無碍（ゆうづうむげ）とは、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが。行動や考えが何にもとらわれず、自由でのびのびしていることを表す四字熟語です。

カミムラコーイチ氏は、和紙を重ね合わせ墨を塗ったり、自在な形の板に布の切れ端を貼ってアクリル絵の具で彩色したりするなど、独特な表現技法で制作活動を展開してきました。カミムラ氏はテキスタイルデザイナーでしたが、20年前に岩手に移住して以降はアーティストとしてコンスタントに作品発表を続けてきました。デザイナー時代のセンスは今に活かされ、画面を構成する色彩、材質、描画材料の多彩さに目を奪われます。

令和6年度中期企画展
カミムラコーイチ展

シャレを利かせたシリーズタイトルも楽しく、「KAITAI-SINSHO」（解体心象）、「HA-ART」（葉アート/ハート）、「亀の甲羅ボレイション」（コラボレーション）、「JOMON-DRIAN」（縄文ドリアン）、「ARCHI-tectec」（歩きテクテク）、「ZONE」など、その都度新たなテーマ性を感じさせる表現様式の変化が制作の進化の形として見るものを楽しませてくれます。

扱う素材は絵の具のほかに、生地、古布、古木など、やや風化の域にある身近なもので特別なものではありません。様々な素材同士の出会いに見出される意外性や美しさは、ジャズのセッションにも例えられ、さらに日常的な食事作りや雑事も、作品制作と同レベルの行為であると作家はとらえています。こうした考えこそ融通無碍の所以（ゆえん）であり、カミムラ芸術の魅力であると思われま。自らが発掘に携わった縄文時代の遺跡や遺物、民俗芸能など、地元古来のものが創作のモチベーションにもなっています。加えて最近ではInstagram上で海外のアーティストとも積極的に交流しており、作家の思索は奥深くますます自由です。



生涯学習センターでの関連展示

KAMIMURA WORKS from INSTAGRAM

カミムラ氏は日常よく見かける風景や物、さりげないドローイングなどを独特の感性で切り取り、毎日のようにInstagramに掲載しています。今回、企画展の関連展示として、そこで公開している画像100枚を氏に選んでもらい、「場スペース」シリーズの抽象絵画4点とともに展示しました。美術館とは一味違うカミムラワールドを楽しんでください。



企画展・関連展示会期 8月25日（日）まで

「利根山光人 魅惑のインド女神たち」盛会裏に閉幕



4月1日から開催していた今年度前期企画展「利根山光人 魅惑のインド女神たち」は、6月2日にその63日間の会期を閉じました。さくらまつりの賑わいに比例して、当館4月の入館者数は昨年度の倍となり、5月にも後述する見学会を開催したおかげで近年一番の入込数となりました。

もっとも、利根山光人の描いたインド女神たちの御利益があったのかもしれませんが。神でありながら人間らしさも感じられる女神たちの姿態を的確にとらえたスケッチや、それらをもとに

制作された絵画作品の雄大なイメージは多くの人々を魅了しました。

この企画展では市所蔵作品25点に加え、(一社)アルテトネヤマより2点の油彩画とインド旅行中のアルバムを2冊お借りし、展示しました。絵画はもちろん、アルバムに収められた現地の写真や遺跡のパンフレット、絵葉書などからも、インドの雰囲気、魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。

利根山光人が書いたデッサン画とモデル、久々の対面



終戦間もない昭和20年代、利根山光人が勤めていた海城中学校に通っていた大谷昭示さん。美術講師だった利根山に自身の顔を描いてもらいました。この絵は平成8年に当館が開館することを知り、寄贈していただいたものですが、このたびはるる九州から奥様と来館。実に28年ぶりに懐かしの絵と対面が叶いました。光人が描いたデッサンそのままの面影の残る大谷さんと、心温まるひとときを過ごしました。

絵画修復士の技に驚嘆 土師広さんの絵画修復見学会

5月25日、東京で工房を構える絵画修復士の土師広(はぜ・ひろし)さんを講師に、絵画修復見学会を開催しました。絵画修復見学会を行うのは2021年、2022年に続き3回目となります。今回は小学生から大人まで55名の皆さんに参加していただき、特にも中・高生が熱心に話に聞き入る姿が印象的でした。土師さんには今年度修復を依頼した2点の油彩画「ししがしら78」「津軽虫送り」を教材とし、作業を披露していただきました。表面のカビの除去や絵の具の剥落(はくらく)部の修正などを間近で見、修復の雰囲気を肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。

絵画の修復の基本的な考え方が確立されたのは近年のことで、過剰な修復行為はせず、オリジナル部分にはなるべく変更を加えないそうです。50年後の修復を想定した修復としているとのことで「全ては未来の修復家への橋渡し」という言葉が印象的でした。修復を終え、発色の良さととツヤを取り戻した絵画を多くの人に見ていただきたいです。



ついに完成 鬼のモニュメント

前号で進捗をお伝えした利根美×鬼の館「鬼のモニュメントリニューアルプロジェクト」ですが、ついに完成し、鬼の館開館30周年記念式典でお披露目、会場に花を添えました。白黒写真では見えにくいと思います。ぜひ鬼の館で実物をご覧ください。

